

トマト茎内から分離した *Fusarium* 属菌の遺伝子型解析

Imazaki, I., Tabira, T. and Azegami, K.: Genotyping of *Fusarium* isolates from the inside of tomato stems.

国内の 6 地点の土を用いて栽培した健全なトマトの茎の一部を切り取り、表面を殺菌した後、*Fusarium* 属菌を 543 株分離した。翻訳伸長因子 1 α をコードする遺伝子を解析したところ、24 遺伝子型が検出され、*F. oxysporum*（以下 *Fo*）、*F. solani*、*Gibberella fujikuroi* のいずれかに類別された。次に、上記 5 地点の内の 2 地点の土から直接本属菌 193 株を分離したところ、その内 171 株が上記 3 種のいずれかに類別された。また、これら 171 株には 22 遺伝子型が検出され、その内 13 遺伝子型がトマト茎内からの分離株にも認められた。また、各地で分離された 57 株の植物病原性 *Fo* では 14 遺伝子型が検出され、その内 4 遺伝子型（トマト萎凋病菌以外の分化型も含む）がトマト茎内から分離された *Fo* にも認められた。以上より、土中に生息する上記 3 種に含まれる約半数の遺伝子型はトマト茎内にも生息できること、さらに、少なくとも一部の植物病原性 *Fo* はトマト茎内から分離された *Fo* と近縁であることが示唆された。

（中央農研）